


2. 「外国人が見つけた奥日光の自然の魅力」

森田 孝道 (日光自然ガイド協議会・日光自然博物館自然解説員)



奥日光の始まりは聖地だった



- ・「日光開山の祖」勝道上人
- ・西暦766年に日光入域
- ・2度の失敗を経て西暦782年に男体山の登頂に成功
- ・神橋、本宮神社、二荒山神社、中宮祠立木観音などを建立した

奥日光の始まりは聖地だった

- ・以来、明治時代の初めまで、奥日光は「聖地」だった
- ・山に登って修行する回峰行が盛んになる = 修験道
- ・江戸時代には庶民も男体山に登るようになるが
→ 当時は女人禁制 限られた山岳修行者しかいなかった




奥日光の始まりは聖地だった

- ・西暦1871年に女人禁制が廃止 翌年初の女性男体山登山
- ・冬期の気候は厳しく、1980年頃まで住む人はいなかった
- ・1887年、奥日光で初めての出生
- ・「観光」ではなく「礼拝」の意味が強かった



「観光地」としての発見

- ・明治時代に入り、日本に外国人がやって来た
- ・各国の公使や領事館の職員、日本政府と取引のある商人とその家族など
- ・居留地は東京や横浜に限られていたが、蒸し暑い日本の夏に耐えきれない事から避暑地へ旅行する要望が高まった
- ・日光は避暑地の候補として早くから数えられていた
- ・1870年にはイギリス公使ハリー・パークス夫妻が東照宮を拝観した



外国人内地旅行免状 (日光自然博物館蔵)

「観光地」としての発見



アーネスト・サトウ

- ドイツ系イギリス人
- 19歳で通訳生として日本を訪れた
- 通訳として活躍し、明治維新の中心人物たちとも交渉にあたった
- 1872年、英国通訳官アーネスト・サトウは公使の随員として日光を訪れた(28才)
- サトウは東照宮を訪れたほか、中禅寺湖まで足を運び、その美しさを日記に書き留めた

画像：横浜開港資料館蔵

「観光地」としての発見



- 1875年には「A Guide Book to Nikko」を発行したほか、1881年には「A Handbook for Travelers in Central and Northern Japan」を刊行するなど、日光を含めた日本各地の魅力を発信した

画像：横浜開港資料館蔵

「観光地」としての発見



- 後に日本公使となり日本とイギリスの関係を保つことに力を注ぐ
- 避暑に訪れた奥日光を愛し、個人の別荘を中禅寺湖畔に建設した
- この建物が英国大使館別荘の元となった
- 中国公使となった晩年、帰国する際に日光を再訪4日間の最後の滞在をした(63才)

画像：横浜開港資料館蔵

「観光地」としての発見



英国大使館別荘記念公園

「観光地」としての発見



英国大使館別荘記念公園

自然へのまなざし



- 登山と植物採集・研究を愛し、日光の山々をはじめ、日本アルプスなどにも登山した
- 日光の山々にも数多く登った
- 資料を採集し分類をおこなう、近代的な自然科学はサトウを始めとする、ヨーロッパの知識階級からもたらされた
- 次男は植物学の大家武田久吉博士で、サトウから登山や植物学の指導を受けた

画像：横浜開港資料館蔵

ガロアムシの発見



- ガロアムシはコロギモドキとも呼ばれる昆虫
- 標高の高い湿った森などで生息する
- 陸上で生きるため羽が退化しており、生きた化石と考えられている
- 世界的にも数が少なく珍しい昆虫

ガロアムシの発見



- 発見者はE. ガロア フランス大使館の職員として中禅寺湖に滞在中に発見した
- 発見者の名前を取ってガロアムシと命名された
- ガロアは当時(1920年前後)珍しい自転車に乗りながら三味線を弾くなど有名人だった

日光の地名の付く植物



•この自然科学の手法の導入は、日光での植物発見＝日光の地名の付く植物につながっていく

センジュガンピ (左上)
シラネアザミ (中上)
シラネアオイ (左下)
シラネニンジン (中下)
ニッコウキスゲ (右下)

「国際避暑地」として発展

- 中禅寺湖畔には30～40軒の外国人別荘が立ち並び、各国の公使や領事館職員が奥日光にやって来て夏を過ごした
- 第二次世界大戦までの期間は「夏は外務省が日光に移る」「国際避暑地」と称された



湖畔の別荘群(大蔵村記)(日光市立日光図書館蔵)

「国際避暑地」として発展

- 中禅寺湖では社交のためヨットレースやマス釣りなどが頻繁に開催された
- こうした中でおこなわれたマスの放流と養殖、日本初のフライフィッシングの実施などは、外国人が中心だった



中禅寺湖のヨットレース(日光市立日光図書館蔵)

「国際避暑地」として発展

- ただの山道だった「いろは坂」も、外国人の高官などが行き来するため整備される事となった
- 当時は「中禅寺道」と呼ばれており、「いろは坂」の名前は明智平ケーブルカー職員により後年命名された



明治中期の中禅寺道(いろは坂)(日光市立日光図書館蔵)

「国際避暑地」として発展



イタリア大使館別荘記念公園

「国際避暑地」として発展



イタリア大使館別荘記念公園

「国際避暑地」として発展



イタリア大使館別荘記念公園

「国際避暑地」として発展



イタリア大使館別荘記念公園

